

## 編集後記

このたびりポジトリ公開のみの『京都芸術大学大学院紀要』第1号を刊行することになりました。本学大学院生の研究成果を世に問う論文集です。

今年度ははじめはコロナ禍による自粛期間があり、当初予定したスケジュールは繰り下げられました。7月10日のエントリー票提出締め切りまでに17論考がありましたが、その後1論考は著者により取り下げられました。9月23日の論文提出締め切りまでに16論考が紀要委員会に届き、各論文は学内外の専門家2名の査読を経て、結果15論考が公開されることになりました。博士課程に在籍する1年生から3年生の論考です。

本学大学院博士課程には理論研究のみを行う学生と理論研究及び制作研究を行う学生がおり、博士号取得にはどちらも学位申請論文の提出が課せられています。本紀要に掲載された論文の多くは学位申請論文の一部となっていく研究成果です。

本学に「より高度な創作と研究をめざした博士課程が発足」（『瓜生山学園三〇年史』2010年、517頁）してから20年が経ちました。紀要が大学院生のさらなる研鑽の場となることを願っています。

皆さまにご高覧いただき、参考にしていただくとともにご批判を賜りますようよろしくお願いいたします。

2020年12月18日

京都芸術大学大学院芸術研究科 芸術専攻（博士課程）専攻長  
京都芸術大学大学院紀要委員会編集長  
河上眞理